

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2003-3 CYCLE)

Experimental Group	T536	Reporter	田村裕和
Scheduled Period and Shift	6/25-7/9, 12 shifts	Main, Sub, Para	Main (2 shifts) Para (10 shifts)
Experimenters 三浦勇介、三輪浩司、江島光彦、芝田健男、谷田聖、田村裕和、ほか			
<p>SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS</p> <p>6/25 - 6/27 パラサイトラン Clover型Ge検出器+BGOカウンターと、従来型Ge検出器+BGOカウンターとをE521標的より30cmくらい上流にビームから15cm離して設置し、Cloverの動作確認と、回路系・データ収集系の調整を行った。</p> <p>7/6 9:00 - 20:00 T536占有ラン pi+占有ビームを用い、11B標的の厚さ(10cm, 4cm, 2cm)とビーム強度の違う条件それぞれについて、Ge検出器のlifetimeを測るためのラン(60Coパルサーのトリガー)と、Clover用BGO検出器の性能を調べるためのラン((pi,K)トリガー)を行った。大雑把にいて、Cloverの高計数率での性能は、従来型Geとくらべて特に劣ってはいないことがわかった。詳細は解析中。</p> <p>7/8 14:00 - 21:30 パラサイトラン E521使用のpi+ビームを用い、11B標的なしで上記と同じCloverのデータをとった。</p> <p>7/8 23:00 - 7/9 1:00 T536占有ラン Clover検出器を撤去し、従来型GeをPWOカウンターが取り囲んだ検出器セットを設置。厚い11B標的を置き、PWOの性能を調べるラン(ビームトリガー)を行った。</p>			
<p>EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.</p> <p>約12シフト、そのうち占有ランとして15時間(セットアップ変更時間を含む)。 サイクル初期の劣悪なスピル構造や、加速器の重故障は、本テスト実験には影響なし。</p>			
COMMENTS			

